

照会先：厚生労働省健康局結核感染症課
電 話：代表 03(5253)1111
夜間直通03(3595)2263
担当者：中嶋 室長 (内線2389)
林 課長補佐 (内線2373)

平成23年1月21日

インフルエンザの流行が拡大中！

ピークに備え、あらためて予防の徹底を

■患者が急増、定点あたり報告数が12.09、推定外来受診者数は78万人に

インフルエンザ患者が急増しています。平成23年第2週(1月10～16日)の感染症発生動向調査では、定点あたり報告数が12.09となり、前週の5.06と比べて2倍以上も上昇しました。推定外来受診者数も78万人となり、前週の15万人から5倍以上に増加しています。例年、流行のピークは1～2月であり、いよいよ流行の拡大が本格化しつつあるといえます。

■昨シーズンかからなかった成人(20代以上)の患者が多い傾向

推定外来受診者数を年齢別に見ると、現在、成人(20代以上)が患者の半数以上を占めています。昨シーズンの流行の中心は小児や学生(5～19歳)で、成人(20～50代)は患者全体の3割弱でした。今シーズンは、昨シーズンにかからなかった世代でインフルエンザが広がっている傾向が見られます。

■現在の主流は新型(A/H1N1)、昨シーズンと同じく重症化にも注意を

ウイルス型別では、昨シーズンに流行した新型インフルエンザウイルス(A/H1N1)が昨年12月から、季節性ウイルスのH3N2香港型に代わって急増、今年に入って最も多く見られています。

その新型(A/H1N1)とH3N2香港型が混在して流行する現在、1月18日時点で72名の重症者、22名の死亡者が報告されています。ちなみに、新型(A/H1N1)の病原性は昨シーズンと同様で、変化は見られていません。

今シーズンも新型、季節性を問わず、お年寄りや基礎疾患をおもちの方、幼児、妊婦の方を中心に、昨シーズンと同じく注意が必要です。

《《《 流行にのらない！ インフルエンザ予防のポイント 》》》

基本的な方法は従来と変わりません。流行にのらないよう、予防に取り組みましょう。

①ピーク前のワクチン接種

インフルエンザにかかった場合の重症化を防ぐ効果が期待できます。接種から2～3週間で効果が現れますので、流行がピークを迎える前の接種が望まれます。

②人ごみを避け、外出先から帰ったら手洗いを

インフルエンザにかかった人がいる可能性が高い人ごみをできるだけ避け、外出先から帰ったら手洗いを徹底しましょう。

③「かかったら広げない！」を基本に、まわりの人への配慮を

もしインフルエンザにかかってしまったら、まわりに広げないことがとても大切です。せきやくしゃみが出る時には、他の人から顔をそらせ、マスクを着用するなどのせきエチケットを心がけましょう。お年寄りや病気で体力が低下している方にうつさないよう、それらの人が多く集まる施設には入らないなどの配慮も必要です。

詳細は厚生労働省ホームページをご参照いただくか、または相談窓口へお問い合わせください。



【厚生労働省ホームページ】

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou01/index.html>

【相談窓口】(委託先：株式会社保健同人社)

電話番号／03-3234-3479 受付時間／9:00～17:00(土日祝日除く)